



國立台灣博物館 本館



SNET台湾 みんなの台湾修学旅行ナビ  
[https://taiwan-shugakuryoko.jp/spot\\_north/1167/](https://taiwan-shugakuryoko.jp/spot_north/1167/)



エリア

台北市

テーマ

歴史

民族

建築

自然

芸術

# 国立台湾博物館 本館

## 台湾最初の公立博物館

台湾の自然史、考古学、先住民を対象とする人類学の博物館の本館です。台北駅の南側、二二八和平公園の北側に位置する新古典主義の建築物です。常設展として先住民の文化と考古学的な紹介を行う「台湾の原住民族」、海洋の生態、陸地の生態などが展示される「台湾の生物」があります。その他、日本統治期に造られた児玉源太郎総督と後藤新平民政長官の銅像も見学しましょう。これらは日本統治期には1階ロビーに置かれていましたが、戦後撤去、保存されていました。しかし、2008年の博物館開館100周年の記念以来、再度展示されるようになりました。国立台湾博物館は、この本館の他、古生物館、南門館、鉄道部園区などからなる複合的な博物館です。

## 学びのポイント

### 1.

#### 台湾を総合的に理解しよう

亜熱帯から熱帯に位置する台湾は、日本とは異なる生態系が見られます。とはいえ修学旅行の日程でフォルモサ(麗しの島)と言われた台湾のすばらしい自然に十分に触れつくすことはできないでしょう。まずはこの博物館で台湾の豊かな自然の姿を理解しましょう。また、台湾には政府公認の16の先住民が暮らしています。それぞれの民族の持つ文化のすばらしさに触れ、多元的な台湾の姿を理解しましょう。

### 2.

#### どうして総督府は豪華絢爛な建築を造ったのか

博物館に一歩足を踏み入ると、その豪華なつくりを目を引かれます。単に価値ある収蔵品を展示するだけならこれほど建築に力を入れる必要はないはずですが。どうして当時の台湾総督府は博物館に力を入れたのでしょうか。それは、宗主国は軍事力だけでなく文化的にも優位であるということを植民地に対して示す必要があったためです。同じような観点で帝国日本は各植民地に博物館を造りました。

### 3.

#### 数度の名称変更後に今の名称に

1908年に設立されたこの博物館は、台湾最初の公立博物館です。1913年には「児玉総督および後藤民政長官記念博物館」と名称を変え、戦後の1945年10月には「台湾省立博物館」となりました。さらに1999年には「国立台湾博物館」と現在の名称に変更されています。省立から国立へと変わったのは、このころ中華民国政府が民主化の流れを受けて「台湾省」の機能を凍結したためです。